

千代田図書館蔵 内務省委託本

千代田図書館では、昭和初期に内務省から東京の市立図書館3館に委託された「内務省委託本」と呼ばれる図書約2200冊を所蔵しています。

戦前期の日本では、中央官庁の一つであった内務省が出版物の検閲をおこなっていました。そのため、全国で出版されたさまざまな本が内務省に納められていました。そして、検閲業務に用いられた本の一部が、1937(昭和12)年ごろ以降、千代田図書館の前身である駿河台図書館をはじめとする、市立図書館3館に委託されていました。

当館で所蔵している内務省から委託された図書は、実際に検閲に使用されたもので、内務省の係官が内容をチェックするために引いた赤線や青線、出版の可否についてのコメントなど、当時どのように検閲がおこなわれていたのかを知ることで貴重な資料です。

2007年2月までは内務省から当館に委託された図書を、「内務省委託本」単独としては管理せず、閉架書庫に納められている資料の一部として、閲覧を希望される方へ提供してまいりましたが、中京大学の浅岡邦雄先生が内務省の検閲について研究をされる中で、これら出版物の貴重性を提言されたこともあり、旧千代田図書館の閉架資料約9万冊の1冊ずつを調べ、「内務省委託本」を抽出しました。

千代田図書館では、『千代田区立図書館出版関連資料コレクション構築方針』に基づき、これら「内務省委託本」を戦前の出版状況と検閲の一側面を知る手がかりとなる資料として、出版関係者や研究者の調査研究に資するとともに、展示等を通じて広く社会的関心を高め、その積極的な活用を図っております。

2008年2月
千代田区立千代田図書館

内務省について

内務省は、かつての日本に存在した中央官庁です。1874(明治7)年に大久保利通らによって創設され、1947(昭和22)年にGHQ(連合国最高司令官総司令部)によって解体されるまで、74年にわたって日本の内政の根幹を掌握していました。

その管轄する業務分野は時期によって異なりますが、地方行財政と警察事務を一貫して担当し、また公共衛生や社会政策、河川や港湾の整備をはじめとする公共事業など、多岐にわたる行政事業を担当することで、国民生活や国土の保全・開発に深く関与していました。

しかし、終戦直後の1945(昭和20)年に、GHQの指令による治安維持法などの取締法の廃止・婦人参政権の付与をはじめとする選挙法の改正などに伴って、内務省が担当する仕事は大幅に制限されることとなります。また、新たな地方自治制度が確立されればそれを中央でまとめる省庁は不要であるとの理由でGHQから解体を要求され、1947(昭和22)年末をもって廃止されるに至ったのでした。

ちなみに、内務省の業務のうち戦後に引き継がれたものは、自治省、警察庁、建設省、国土庁などが担当することになり、その後の省庁再編で現在では総務省、国土交通省、警察庁などに受け継がれています。また、現在の厚生労働省も、1938(昭和13)年に内務省から分離した厚生省に由来しています。

戦前期日本の検閲

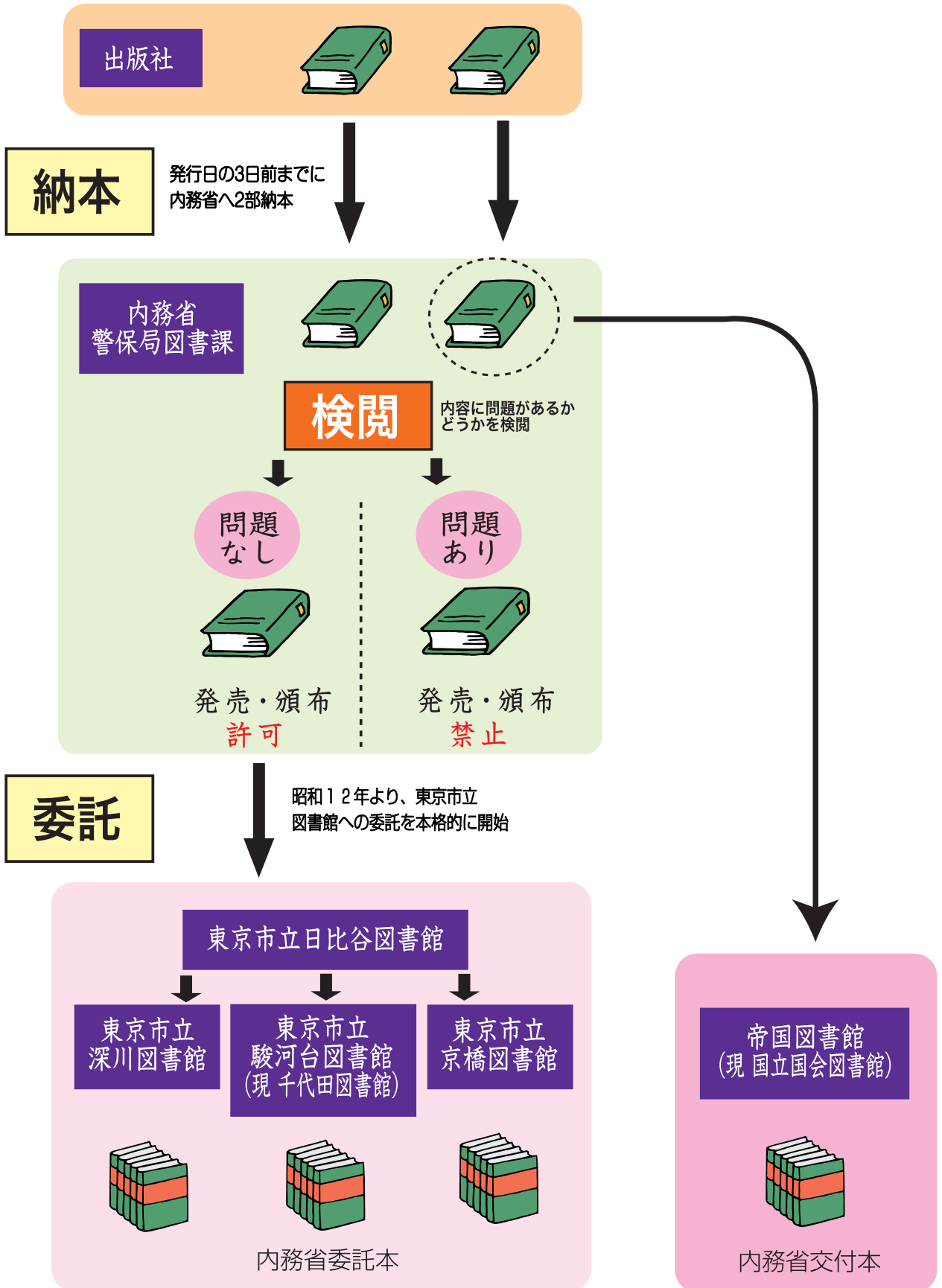
戦前期日本の出版物への検閲は、新聞紙法および出版法に基づき、内務省で行なわれていました。これらの法律のうち、新聞雑誌以外の本について規定していたのが出版法です。出版法では、発行日の三日前までに、出版物の製本2部を内務省に提出しなくてはならないという、「納本(のうほん)」が義務付けられていました。

そして、内務省での検閲により「安寧(あんねい)秩序(ちつじょ)ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壊乱(かいらん)スルモノト認ムル」(「出版法」第19条)図書、つまり、当時の政治・社会制度を害したり、社会の良俗を乱したりするおそれがあると認められた図書は、内務大臣の名により発売・頒布を禁ずる行政処分を下すことができると定められていました。

検閲の作業を内務省で実際に行なっていたのは、警保(けいほ)局図書課でした。警保局は、内務省の管轄業務のうち警察事務を担当する部局です。図書課は、戦時体制が強化される中、1940(昭和15)年に内閣に情報局が設置されるのにもなって検閲課と名称が変更されますが、戦後の1945(昭和20)年に、GHQによって廃止されることとなります。また、同年に出版法および新聞紙法の効力もGHQによって停止され、1949(昭和24)年には法律そのものが廃止されました。

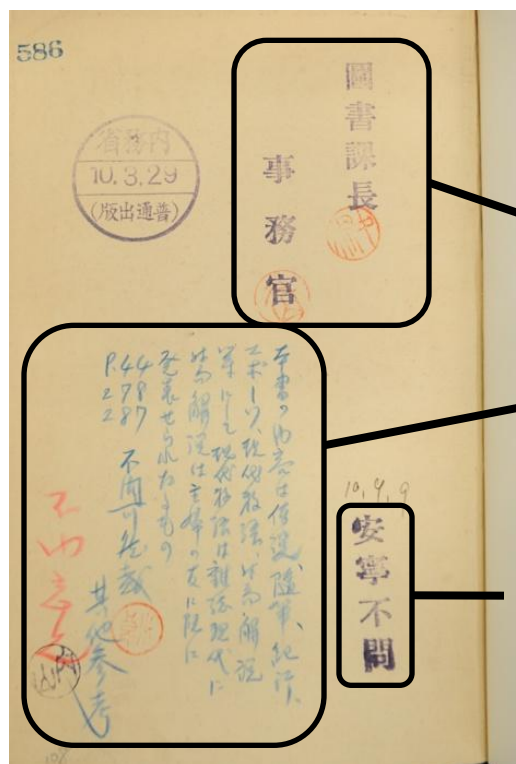
こうして、内務省による検閲は、終戦とともに終焉を迎えることになったのでした。

納本から委託の流れ (昭和12年ごろ)



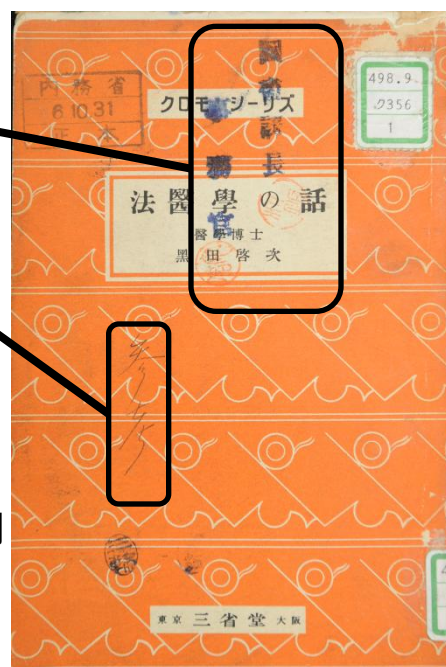
印とコメント

みかえ 〈見返し〉



「本卦かへり」下村海南／著、四条書房／出版（1935年）

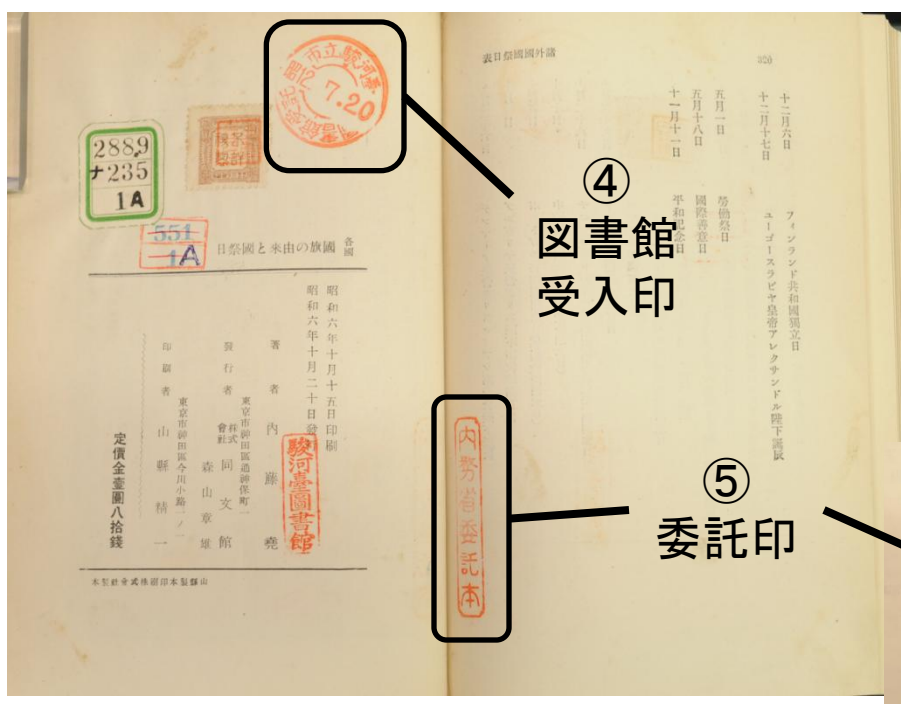
見返しではなく、表紙に印とコメントがあるもの



- ③ 係官印
- ① コメント
- ② 「安寧」印

「法医学の話」黒田啓次／著、三省堂／出版（1931年）

おくづけ 〈奥付〉



- ④ 図書館 受入印
- ⑤ 委託印

「内・寄」の印が見られるもの



「各国国旗の由来と国際日」内藤堯／著、同文館／出版（1931年）

「culture and life」北星堂書店／出版（1926年）

<見返しより>

見返しで見られる印やコメントは、内務省で担当官によってなされたもので、同時に決裁の書類をも兼ねていました。

①コメント

係官などによる検閲作業に伴う、様々なコメント。

すべての本にコメントがあるわけではなく、千代田図書館の内務省委託本の中でわずかでもコメントが確認できるものは一割弱です。

②「安寧」印と「風俗」印

検閲の基準であった「安寧」「風俗」の言葉には印が用いられていることもあります。そのほか、「参考」「不問」などの印も見られます。

「安寧」⇒「安寧」秩序を害するもの／当時の政治・社会制度を害するもの

「風俗」⇒「風俗」を乱すもの／社会の良俗を乱すもの

③係官印

内務省で検閲作業に関わった担当者(警保局図書課長、事務官、図書課係官、その他)の印を、千代田図書館では「係官印」と呼んでいます。

<奥付より>

奥付に見られる印は、図書館で捺されたものと思われます。

④図書館受入日印

図書館が、資料の管理のため本を受け入れた際に捺した印。

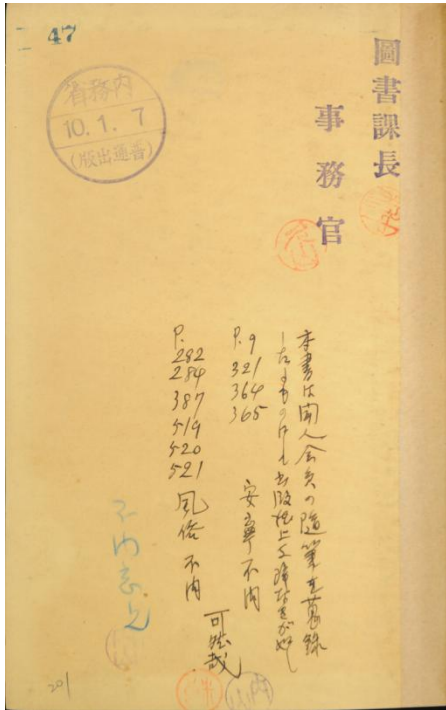
現在、千代田図書館の内務省委託本の中でいちばん古い受入日印として確認できるのは、昭和5年2月21日です。

⑤委託印

図書館が内務省から受け入れた本に捺したとされる印で、「内務省委託本」と「内・寄」の2種が確認されています。それらを千代田図書館では「委託印」と呼び、委託印が確認できる本を『内務省委託本』としているが、使い分けの詳細については不明な点も多くあります。

「内務省委託本」印は、“④図書館受入日印”が昭和12年以降の本に確認でき、「内・寄」印は昭和5年～昭和12年の本で確認できます。

様々なコメント



『世界を描く』
聞人会 / 著
立命館出版部 / 出版(1935年)

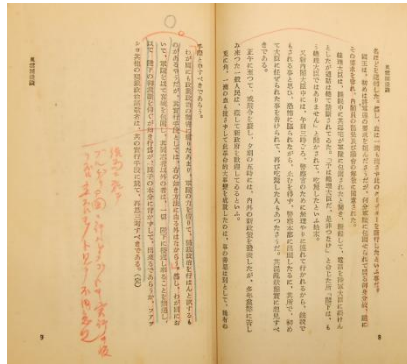
本書は聞人会員の随筆を蒐録したるものにして出版法上支障なきが如し

P. 282	P. 321	9
284	364	4
387	365	5
519		
520		
521		

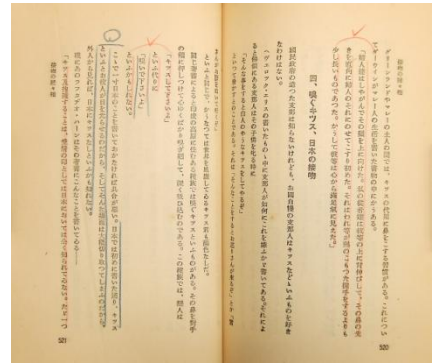
不問意見 風俗不問 安寧不問 可然哉



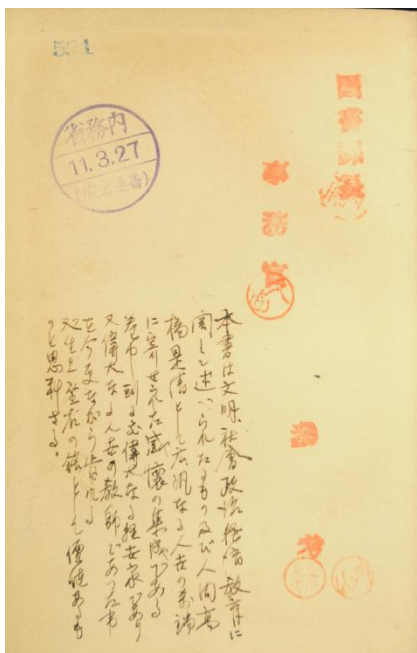
本書は聞人会員の随筆を集めて収録したものであり、出版法上ほとんど支障がない。安寧問題なし・風俗問題なし
として良いと思うがいかがだろうか
問題なしと考える



P. 8、9



P. 520、521



『随想録』
高橋是清 / 著
千倉書房 / 出版(1936年)

参考
本書は文明社会政治経済教育に
関して述べられたもの及び人間高
橋是清として広汎なる人世の万端
に寄せられた感懐の集成である
巻中到的処偉大なる経世家であり
又偉大なる人世の教師であつた事
を今更ながら肯れる
処生上坐右の銘として価値あるも
のと思料さる。



参考
本書は文明・社会・政治・経済・教育に
関して述べられたもの、および人間・高橋是清が、
ひろい人の世の中にあるさまざま
細かいことについて抱いた感想を集めたものである。
文中どこをとつても、偉大な政治家であり、
また人の世についての偉大な教師であつたことが
今さらながらうなずかれる。
社会のなかで生きてゆくうえで、坐右の銘として
価値あるものと考えられる。

高橋是清 たかはしきよまさ [1854-1936]

明治-昭和時代前期の政治家。明治44年日銀総裁。大正10年暗殺された原敬のあと
首相・政友会総裁となる。13年衆議院議員。昭和2年の金融恐慌では蔵相として支払
猶予令を施行、6年金輸出再禁止を実施。11年2月26日二・二六事件で暗殺された。
(日本人名大辞典より抜粋)

内容支障ナシ

参考

一、著者ハ山本宣治ノ縁者ニシテ左翼運動斗士トノ交リ多ク一種ノ同情者トシテノ立場ニアリ。一時ハ検挙サレタコトモアル。

然シ、著者ハ本書中ニ於テ「五字消去」

「二字消去」自分ハ一個ノ医者ニ過ギズ、

決シテマルクス主義者デハナイト

陳弁シテ居ル。

包懐スル思想トシテハ自由主義

デアルコトヲモ明記シテ居ル。

一、然シ、本書ノ内容中ニハソウヴェト・

ロシヤト日本トノ比較ヲ医学方

面ニ於テデアアルガ論シテ、ロシヤ

礼讃的口吻ヲ表明シテ居ルト共ニ

勿論輕微ニシテ低調デアアルガ

其他、社会生活諸般ノ不幸、欠陥

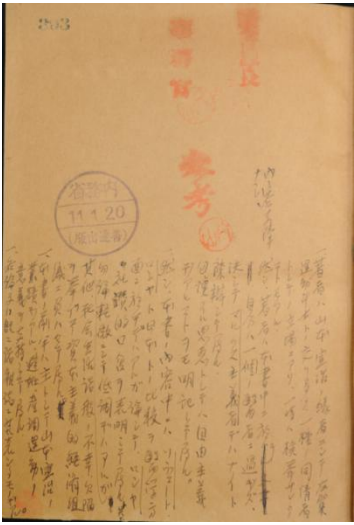
ヲ挙ゲテ資本主義的經濟組

織ニ負ハセテ居ル。

一、本書ノ前半ハ主トシテ山本宣治ノ

業績デアル。避妊、産調運動ノ

意義ヲ支持シテ居ル。



『社会診察録』

安田徳太郎／著

サイレン社／出版(1936年)

安田徳太郎 やすだとくたろう

[1898—1983]

医師、社会運動家、著述家。従兄の山本宣治らと産児制限運動を行い、医療を通して社会運動に参加していった。著書に、『世紀の狂人』、ベストセラーとなった『人間の歴史』全六巻など。

(日本大百科全書より抜粋)

内容支障なし

参考

一、著者は山本宣治の関係者で、左翼運動闘士との交流が多く、一種の同情者としての立場にある。一時は検挙されたこともある。

しかし、著者は本書中において、

自分は一個の医者にすぎない、

けつしてマルクス主義者ではないと述べている。

心の中に抱いている思想が自由主義

であることも明記している。

一、しかし、本書の内容中ではソウヴェト・

ロシアと日本との比較を医学方面についてはあるが論じて、

ロシアをほめたたえるような口ぶりを表明しているとともに、

もちろんごくわずかで、控えめにではあるが、そのほか、

社会生活のさまざまな不幸、欠陥を挙げて、

資本主義的經濟組織のせいにして居る。

一、本書の前半は主として山本宣治の

業績である。避妊、産児調節運動の意義を支持している。

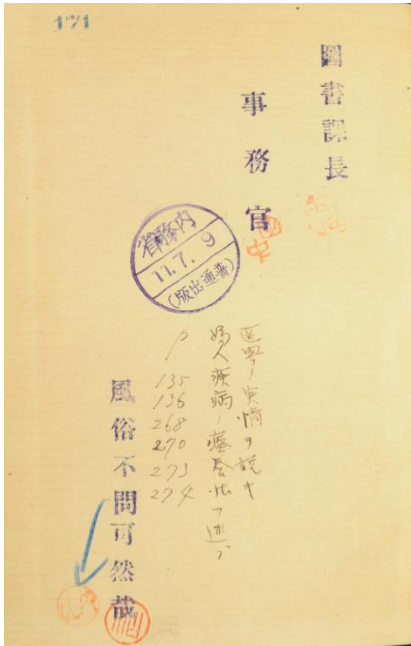
一、各論文はすでにいろいろの雑誌に発表したものである。

医界ノ実情ヲ説キ
婦人疾病ノ療養法ヲ述ブ
P 3568034
1368034
1267777
2222222

風俗不問可然哉



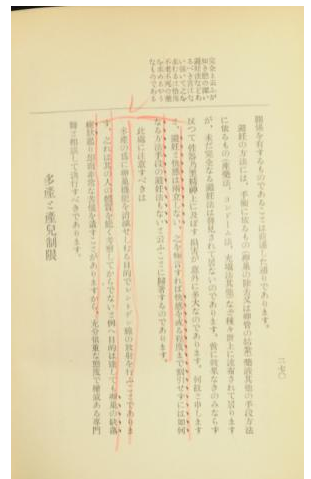
医界の実情を説明し、
女性特有の病気の療養法を述べている。
風俗問題なしとして良いと思うがいかがだろうか



『婦人と経済的治療法』

小鷹利三郎／著

樵山堂書店／出版(1936年)



参考文献(千代田図書館所蔵分)

● 事典・辞書類

- 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』(吉川弘文館、1979年-1997年)
- 加藤友康ほか編『日本史総合年表』第2版(吉川弘文館、2005年)
- 吉川弘文館編集部編『近代史必携』(吉川弘文館、2007年)
- 岩波書店編集部編『近代日本総合年表』第3版(岩波書店、1991年)
- 佐々木毅ほか編『戦後史大事典』増補新版(三省堂、2005年)
- 森岡清美ほか編『新社会学事典』(有斐閣、1993年)
- 『世界大百科事典』2005年改訂版(平凡社、2005年)

● その他(発行年順)

- 鵜飼信成ほか編『日本近代法発達史 — 資本主義と法の発展』11(勁草書房、1967年)
- 東京都千代田区編『千代田図書館八十年史』(東京都千代田区、1968年)
- 大霞会編『内務省史』第1巻・第2巻(地方行政協会、1970-1971年)
- 内川芳美編『現代史資料』40(マスメディア規制 1)(みすず書房、1973年)
- 同上編『現代史資料』41(マスメディア規制 2)(同上、1975年)
- 掛川トミ子編『現代史資料』42(思想統制)(同上、1976年)
- 清水正三編『戦争と図書館』(白石書店、1977年)
- 戦前期官僚制研究会編『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』(東京大学出版会、1981年)
- 羽島知之編『新聞の歴史 — 写真・絵画集成』2(激動期の新聞)(日本図書センター、1997年)
- 水谷三公『官僚の風貌』(伊藤隆ほか編『日本の近代』13)(中央公論新社、1999年)
- 佐々木隆『メディアと権力』(同上、14)(中央公論新社、1999年)
- 百瀬孝『内務省 — 名門官庁はなぜ解体されたか』(PHP新書、2001年)
- ゴールドスティーン、R. J.(城戸朋子・村山圭一郎訳)
『政治的検閲 — 19世紀ヨーロッパにおける』(法政大学出版局、2003年)
- 佐藤卓己『言論統制 — 情報官・鈴木庫三と教育の国防国家』(中公新書、2004年)
- 竹内洋『丸山真男の時代 — 大学・知識人・ジャーナリズム』(中公新書、2005年)
- 副田義也『内務省の社会史』(東京大学出版会、2007年)
- 石原千秋『百年前の私たち — 雑書から見る男と女』(講談社現代新書、2007年)
- 飯尾潤『日本の統治構造 — 官僚内閣制から議院内閣制へ』(中公新書、2007年)

千代田図書館の内務省委託本の閲覧には、事前の申請が必要です。

検索には図書館カウンターにあります『千代田図書館所蔵内務省委託本目録』(冊子)をご利用ください(OPAC、WebOPACでの検索には対応していません)。

くわしくは、千代田図書館までお問い合わせください。

<企画展示>

千代田図書館蔵 内務省委託本 「今に遺る検閲の痕跡」

2008年1月28日～3月19日 千代田図書館9階 展示ウォール

千代田図書館 千代田区九段南1-2-1 電話 03-5211-4289

このパンフレットは、千代田図書館で行った企画展示のパネルをもとに作成しました。